

2021年 12月 子育てワンポイント

テーマ 「子どもは散らかし魔」

～どうして散らかすの？～

子どもたちはどうして散らかしちゃうんでしょう？

そもそも大人は「また散らかして！」と思いがちですが、子どもにとっての「学び」は「遊び」なのです。散らかしているように思える行為は「遊び」であり「観察」「研究」「実験」でもあります。

〈例えば…〉

積木が積んであるとします。するとすぐに寄ってきて壊してしまいます。「触るとどうなる？」と実験し、「形が変わった」「バラバラになった」「音がした」などと大発見するのです。

0～1.2歳では…

積んであると喜んで壊しに来ます。“秩序を壊すこと”を遊びで何度でも繰り返します。床にバラバラになったものに見向きもしないのに、きれいに棚に片付けたとたん必ず散らかしに来るといこともしばしばあるのではないのでしょうか。

1.2歳～4歳では…

「作っては壊し」「作っては壊し」のくり返しを試行錯誤しながら楽しめます。

4歳以降では…

何か目的を持って“つくる”ことを楽しむようになります。

このように、子どもたちは遊びを通して、コツコツやる力、仮説を立てて実験する力、工夫する力を養います。これらは、どんな場面でも大切になる一生モノの力で、後から育てるのは難しいものです。子どもが夢中になれる機会（それが大人から見ると散らかしている様だとしても）をどれだけ作れるかが大切なのです。

手は「突き出した脳ともいわれています。子どもたちは起きている間中、手を使って脳に刺激を送っていると言えます。だからお部屋が散らかった時には「今日も立派な脳が育ったわ…」と思えるといいのかも知れませんね。



十分に遊んだ後の片付けもまた、楽しく遊びの一環としてできるようおもちゃを元に戻したくなる工夫をするのはどうでしょう。なんでも一緒に入っていると子どもはモノに対する愛着が持ちにくく大切にしなくなり元に戻そうとしなくなります。

「箱に入れるのは1種類ずつ分ける」「片付ける場所が一目でわかる」などの工夫を一緒に楽しく片付けができるといいですね…。
また散らかすかもしれませんが・・・。

